

## 「世界をリードするサステナブルシティ」に向けた取組について

本市は、今年度を「世界をリードするサステナブルシティ」に向けたキックオフの年と位置付け、環境、経済、社会の課題解決を通じて持続可能なまち(サステナブルシティ)であり続けるための戦略的なアプローチを推進しており、現時点における取組状況を以下のとおり報告する。

### 1. これまでの取組

#### (1) 気候変動に関する国際会議への出席(6月)

日本の自治体で唯一招待を受け、ドイツ・ボンで行われた COP30<sup>1</sup>に向けた関係会議及び、ボン市及び ICLEI<sup>2</sup>世界事務局が主催した気候変動に関する国際会議「Daring Cities 2025」に参加・登壇(別紙)

#### (2) 部局横断プロジェクトチームの創設(9月)

「世界をリードするサステナブルシティ」実現に向けた市民・企業・行政の共創の場づくりを見据えた準備として、市役所として部局横断プロジェクトチームを創設

#### (3) 世界に向けて北九州市のサステナビリティを紹介する動画の作成(10月)

「利他」と「再生」をテーマに、環境政策のみならず、自然や福祉、食、スポーツなどについて幅広く紹介する動画を作成

【動画 URL】<https://www.youtube.com/watch?v=Co9YzD9DGtM>



【動画 QR】

#### (4) 訪日海外専門家へのサステナビリティに関するヒアリング(11月)

北九州市を訪れた SDGs に関する海外専門家に対してヒアリングを実施

### 2. 世界的専門家との連携

都市とサステナビリティに関する世界的な専門家と連携関係を構築(別紙)

### 3. 今後の展開

市民との密なコミュニケーションを推進し、市民との共創関係の構築を図るとともに、世界に向けたサステナブルシティに関する理念や以下の3点を中心とした取組を順次発信予定

- 産官学民連携によるイノベーションの創出
- 投資家や専門家、イノベーター等と呼び込む仕組みの強化
- 市民の日常に根差した活動の推進

以上

<sup>1</sup> 第30回国連気候変動枠組条約締約国会議

<sup>2</sup> 持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会

## ドイツ・ボン 国際会議への出席

### 会議① UNFCCC Dialogue



### ◆ラウンドテーブル

気候変動プロセスにおける地方自治体の関与

各国・各都市のリーダーが集うハイレベル会合において、  
北九州市の歴史と市民環境力、そしてビジョンを**熱弁**

### 会議② Daring Cities 2025



### ◆パネルディスカッション

困難な時代における新たな世代の多層的パートナーシップ  
＝北九州市のマルチレベルアクション

**北九州市の市民・企業・行政が一体となった挑戦**を紹介  
世界に向けて都市の役割を力強く発信

## 世界的専門家との連携

【シューメイ・バイ教授】

オーストラリア国立大学フェナー校環境・人間環境学卓越教授。東京大学客員教授、日本の地球環境戦略研究機関（IGES）評議員。2019年と2022年には「気候変動政策分野で世界で最も影響力のある100人」に選出。2018年ボルボ環境賞、2021年グローバル経済賞の受賞者であり、現在は、IPCC特別報告書「気候変動と都市」の調整主執筆者を務める。



- ✓ 都市とサステナビリティに関する世界的な専門家であり、本市について、世界をリードするサステナブルシティと評価
- ✓ 具体的には、教授は北九州市について、世界的なサステナブルシティとして知名度の高いコペンハーゲン（デンマーク）と並ぶ「利他的な都市」（altruistic cities）と評価
- ✓ また、今後の世界のサステナビリティ実現のためには、サステナブルシティの概念を、都市が世界変革の主体であるという新たな概念（transformative agents）へアップデートすべきという最先端の理論を提言している。